

資料館 10月19日オープン

日本宝くじ協会の助成を受けて整備した深澤晟雄資料館がいよいよ10月19日オープンします。

開館イベントは三部構成で企画され、第一部は午前10時から開館式です。沢内病院前に新装なった深澤晟雄資料館前で、テープカットなどのオープンセレモニーと資料館内見学を行います。

一般町民も参加できますが、通院車両の駐車に支

障のないよう沢内庁舎の駐車場をご利用下さい。

加藤元沢内病院長が記念講演

第2部は11時30分から

沢内バーデンに会場を移して記念講演。「生命村長・深澤晟雄を語る」と題して、元沢内病院院長で現在、仙台徳洲会病院健康管理部医師の加藤邦夫

先生の講演があります。

昭和35年に沢内病院に着任以来、深澤村長と二人三脚で生命行政の基盤となる地域包括医療の理論と実践を構築、日本医師会からも注目される成果を挙げた加藤先生の講演だけに、町民の期待を集めています。一般町

民も無料で聴講できます。

第3部は12時30分から

沢内バーデンで祝賀会。招待者や本会会員にはご案内済みですが、出席が欠席になるなど出欠に変更のある方は早めにご連絡下さい。バスは開館式後、資料館から沢内バーデンへ、祝賀会終了後は南北に運行します。

なお、資料館はオープン初日の開館式行事終了後から一般公開されます。

入館無料、休館は月曜日

資料館はNPO法人深澤晟雄の会で運営します。非営利活動の趣旨に沿って入館料は無料として、みなさんの寄付金などを運営資金にあてることにしています。

休館日は毎週月曜日と

し、月曜日が祝日などで休日の場合は翌日を休館日とします。開館時間は午前9時から午後5時(4時30分入館)までと

しますのでご協力下さい。

休館日でも予約を受けて開館できる場合もありますので、事前に本会事務局にご相談下さい。また、観光や学習会、資料提供などの対応にも努めますのでご相談下さい。

なお、資料館の管理にご協力いただける方を募っております。みなさんの自薦・他薦の情報を事務局へお寄せ下さい。

雪国の健康モデル住宅として深澤精神を宿す旧看護婦宿舎は築45年目。生命尊重の館・深澤晟雄資料館として再出発する。



「沢内村民であることに 自信と誇りをもとう」



「村民一丸となれば何でもできる」村民運動会はその住民パワーを確かめ合いながら、第41回大会を最後に町村合併で幕を閉じた。

深澤語録を訪ねて

昭和39年8月、深澤村長は食道ガンを知らされずに横手市の平鹿総合病院で手術を受けた。9月末に退院して次第に元気になっていったが咳は続いた。東京オリンピック閉会の10月24日、第1回村民運動会の大会長として村民に語った言葉である。これが、深澤村長が直接村民に向かって語る最後の言葉になることは誰もが予想だにできなかった。

村民のみなさん。みなさんには大変ご心配をおかけしましたが、おかげさまでこのように元気になることができました。ほんとうにありがとうございました。私は今、みなさんの明るい元気なお顔を拝見して、感激しています。

自信と誇りに満ちた沢内村民がここに集まっているのです。沢内村は前進を続けています。昔の沢内は暗かったし、ひどく不便で貧しかったです。私が若い頃、一関の中学校に行くにも、横手まで歩いて出てそこから山形へ行き、仙台に行き、一関に行つたものです。

上映会のご案内

「いのちの作法」10月中旬から11月上旬の一般を対象とする上映会のご案内です。

▼10月18日14時、18時30分／花巻市・東和町総合福祉センター ▼10月19日10時、13時／香川県高松市生涯学習センター ▼10月19日10時、13時、16時30分／盛岡市・松園地区公民館 ▼10月24日19時・25日10時、14時／仙台市青年文化センター・シアターホール ▼10月26日13時／盛岡市玉山区好摩地区公民館 ▼10月26日14時／高知市立自由民権記念館 ▼10月26日13時／大分県別府市中央公民館 ▼10月31日19時／京都市心と・まち交流館京都 ▼11月6日11時／郡山市中央図書館視聴覚ホール ▼11月8日14時20分／福島県二本松市・安達文化ホール

その頃はわれわれが行くと、沢内の猿が来たなどと馬鹿にされたものです。沢内の住民は、まるで三文の価値もないように言われたものです。だから人々は、沢内に生まれたことを卑屈に思いました。

しかし、みなさん。今の沢内は昔の沢内ではありません。村民が力を合わせればどんなことでもできる、ということをわれわれは立証しました。そして今、沢内

内の村民は日本中のどこでも胸を張って歩けるようになりまし。もう卑屈になることはない。沢内村民であることに、大きな自信と誇りを持ってください。これからも、沢内村に生まれたことに自身と誇りが持てるように、みなさん一緒に力を合わせ、村づくりをすすめていこうではありませんか。

（及川和男著
「村長ありき」より）